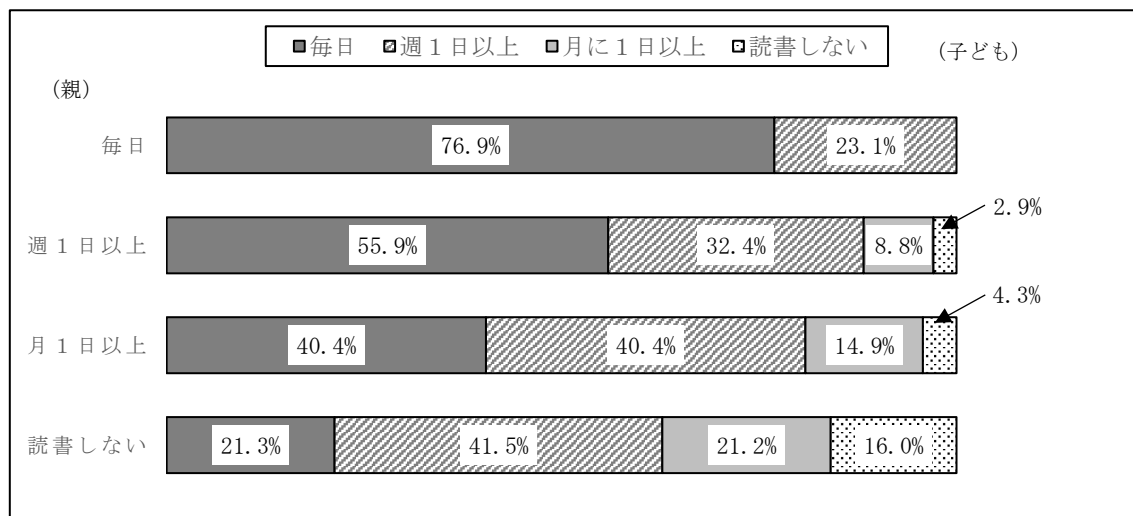


## 子どもの読書活動に関するアンケート調査結果の分析について

### 1. 幼稚園・保育園の園児の保護者

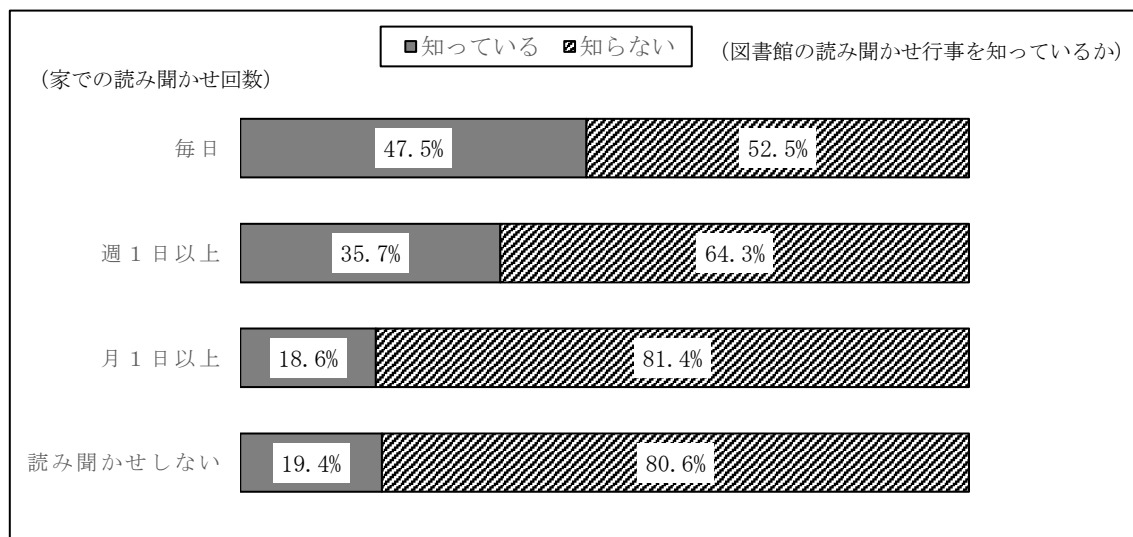
#### (1) 親の読書回数と子どもの読書回数の関係について



・親の読書回数が高ければ子どもの読書回数は多く、親の読書回数が少ないと子どもの読書回数も少ない傾向が見られる。

・幼児期は、親の考えが子どもの行動に影響を及ぼす要素が大きく、親が読書好きならば、子どもに本を購入したり、読書を勧めたりしていることが考えられる。

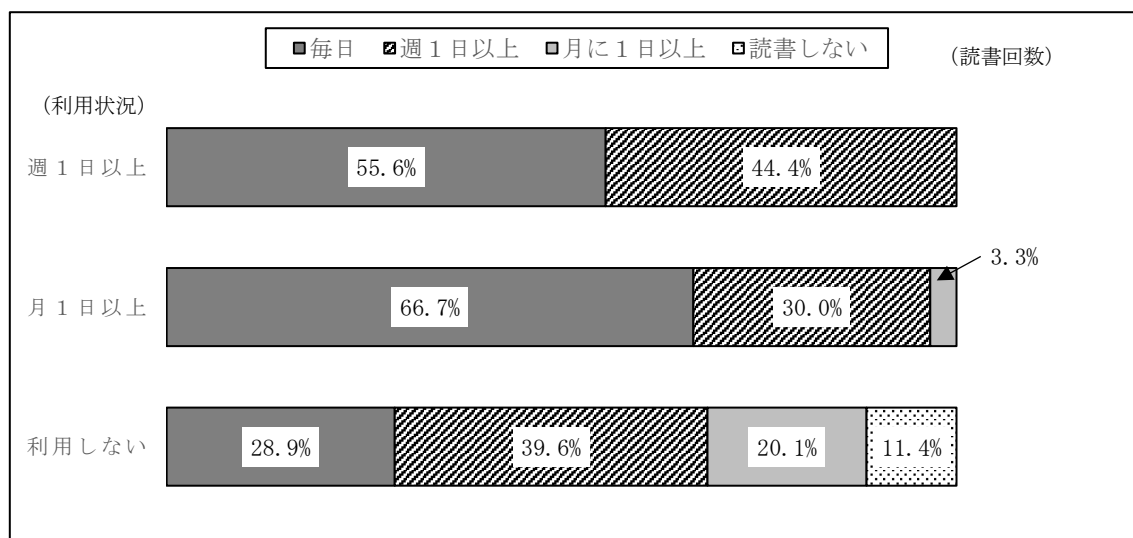
#### (2) 家での読み聞かせの回数と図書館の読み聞かせ行事を知っているかとの関係について



・家で読み聞かせをする頻度が多い人ほど図書館の読み聞かせ行事を知っている。

・子どもに読み聞かせをしないと答えた家庭は全体の19.0%であり、図書館利用や読み聞かせに対する関心が高まるような働きかけができると、家での読み聞かせの実施につながる可能性がある。

### (3) 図書館の利用状況と子どもの読書回数の関係について



・図書館の利用回数と子どもの読書回数には有意の関係性は見られない。

子どもが読むための本は72.0%が購入すると答えているので、現状では幼児期の読書活動に対する図書館の関与は少ないものと見込まれる。

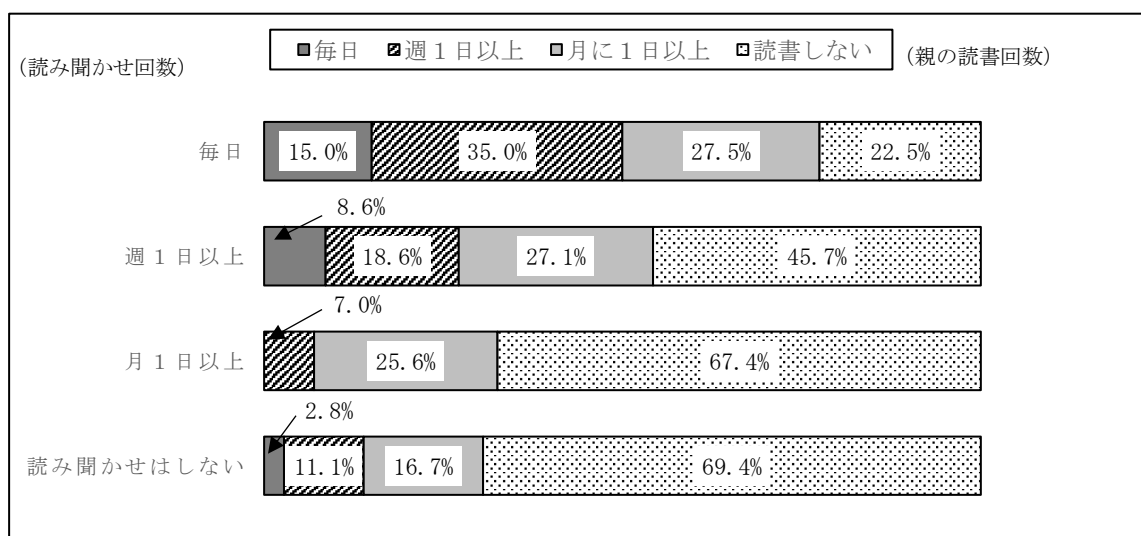
#### 【参考データ】

●0歳～6歳 中央図書館貸出冊数、貸出者数

年度	貸出冊数	貸出者数	1人当たり貸出冊数
令和元年度	8,923 冊	1,326 人	6.73 冊
令和2年度	8,008 冊	1,390 人	5.76 冊

(令和2年度の0歳～6歳貸出冊数が前年度より減少しているが、貸出者数は同じ。  
1人当たりの貸出冊数が減少している。)

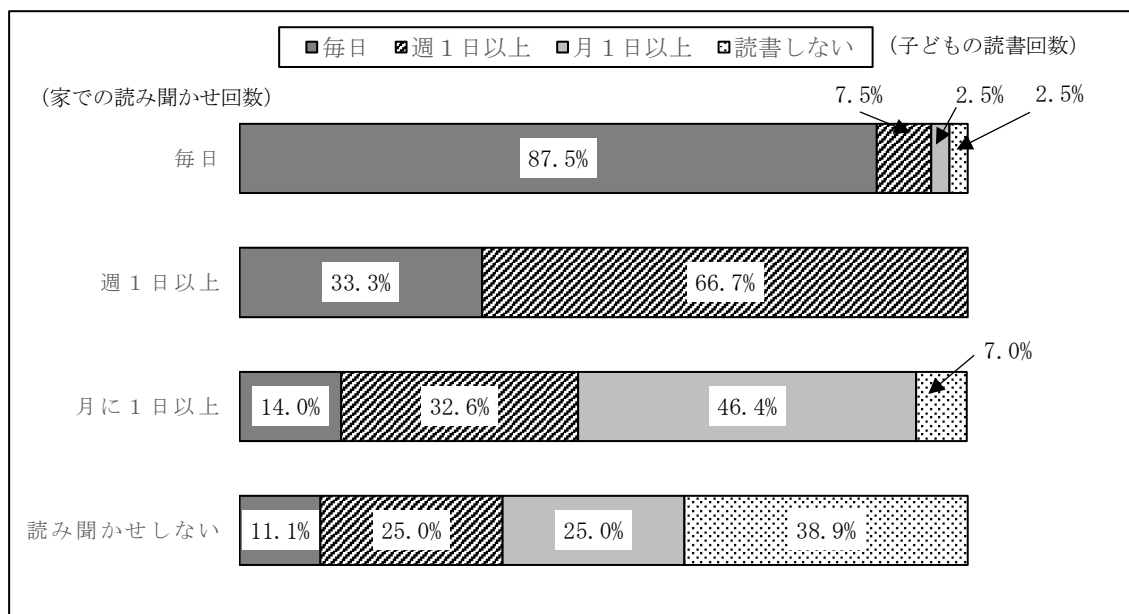
### (4) 家での読み聞かせの回数と親の読書回数の関係について



・家での読み聞かせの回数が多い家庭は、親の読書も多い傾向が見られる。

・親が読書をしない理由としては、忙しい、読書に興味が無いなど、様々な理由がありうるが、家での読み聞かせの回数に少なからず影響していると考えられる。

### (5) 家での読み聞かせの回数と子どもの読書回数の関係について



・家での読み聞かせの回数と子どもの読書回数は、正比例の傾向が見られることから、幼児の読み聞かせと読書は一体的に捉えることが適当と考えられる。

### (6) 読み聞かせをしない理由

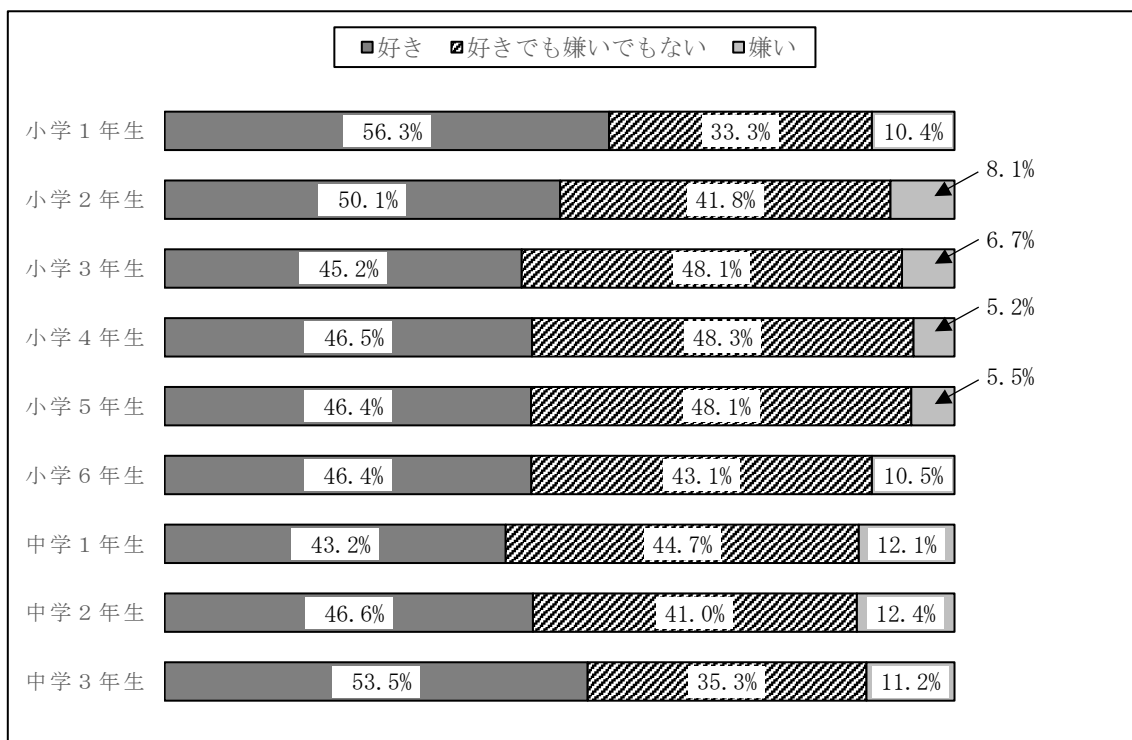
- ・読み聞かせをしない主な理由として、「忙しい」が42.6%と最も多く、次に31.9%が「子どもが興味を示さない」と回答している。
- ・今回新たに加えた調査項目のため経年の比較はできないが、読み聞かせを拡げる上では興味を高める方策の検討や取り組みが必要と考える。

## 2. 小・中学生

### (1) 学年別の傾向について

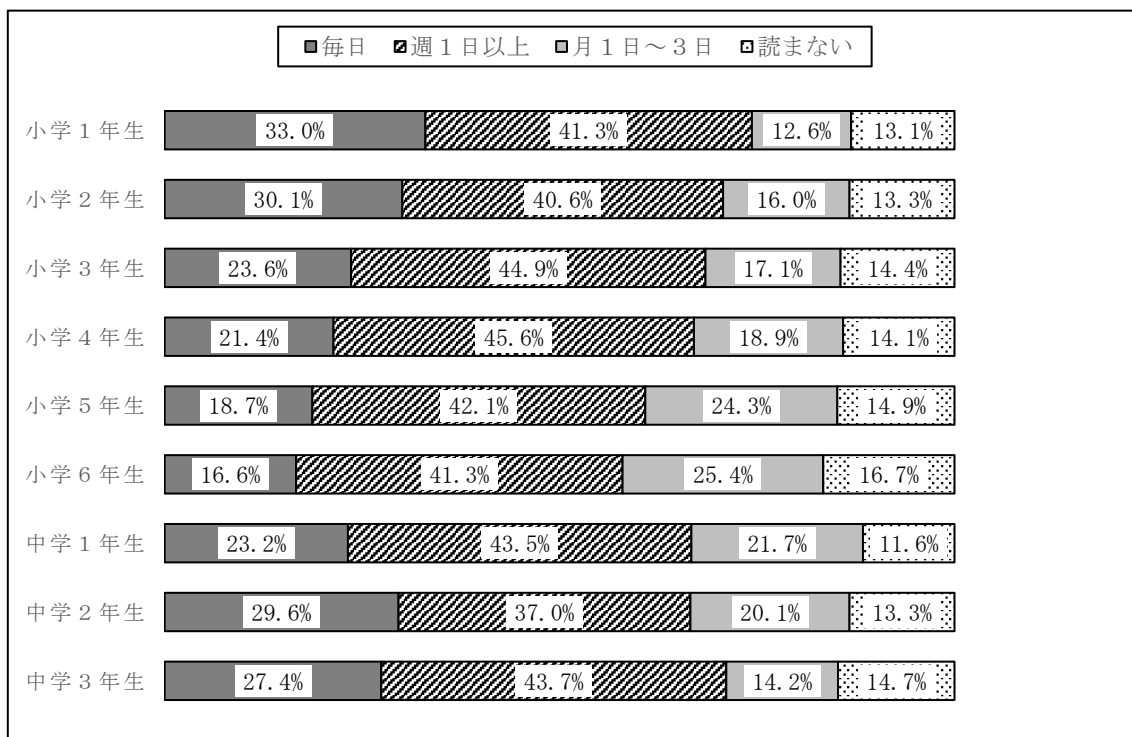
アンケート結果について、学年別に再集計を行った。

#### ①本を読むこと（マンガを除く）は好きですか。



・学年によって多少の幅はあるが、本を読むことが「好き」と回答した生徒は半数近くいる。また、学年別の結果で大きな偏りは見られない。

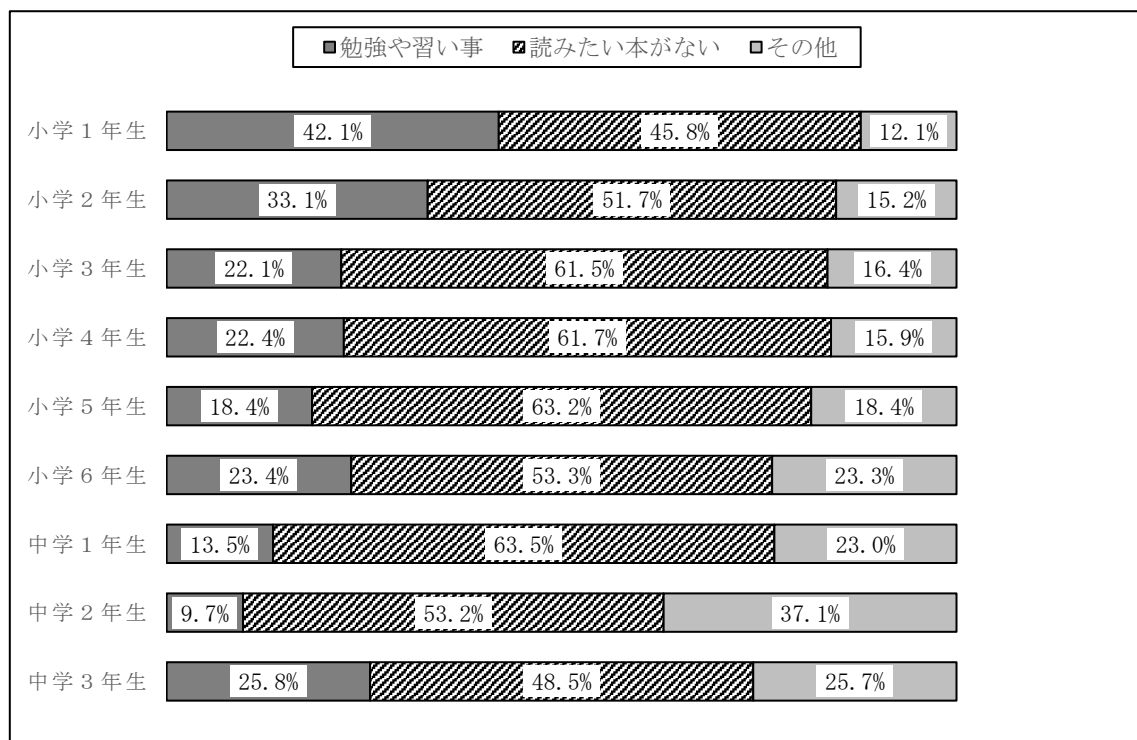
#### ②あなたはどれくらい本（マンガは除く）を読んでいますか。



・本を「読まない」と回答した児童・生徒は前回調査より増加しているが、各学年平均で13%～14%と一定であるため、どの学年でも本を読む習慣はある程度は定着していると考えら

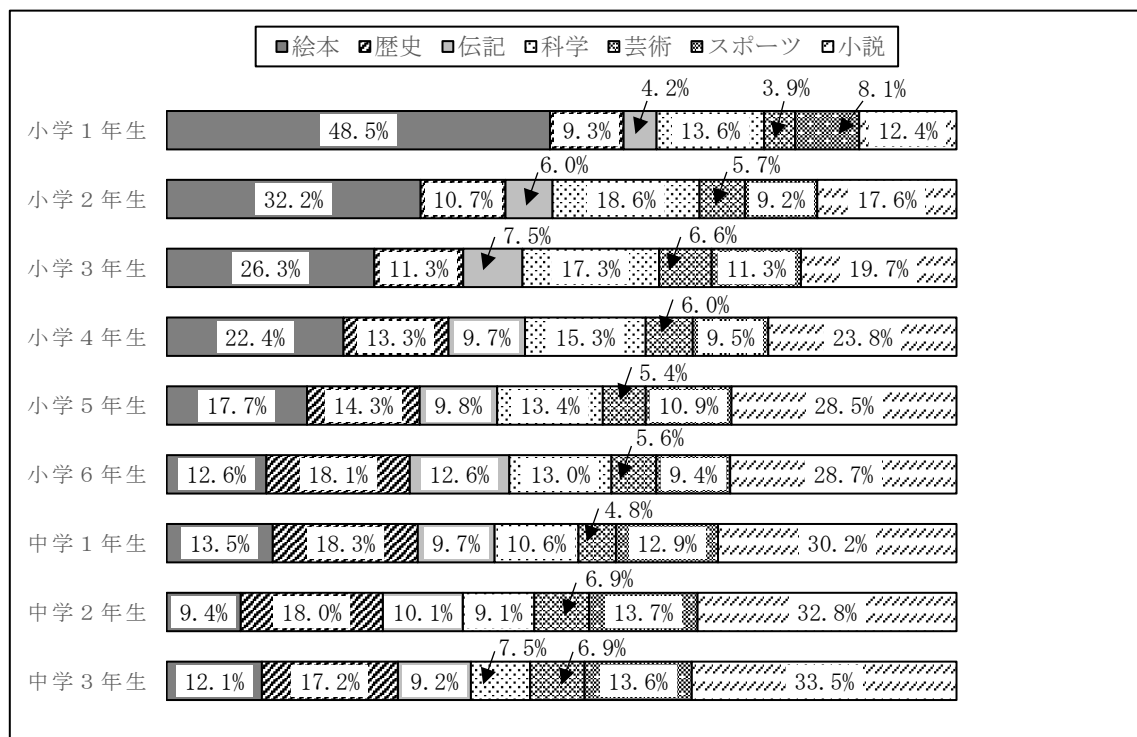
れる。

③本を読まないのはなぜですか。



- ・本を読まない理由としては、「読みたい本がない」がどの学年も半数以上となっている。
- ・その他としては、「文字が嫌い」、「そもそも読みたくない」、「遊んでいる」等となっている。
- ・「読みたい本がない」に対して、図書館としてできることは何か？という点に着目して取り組むことが必要と考える。

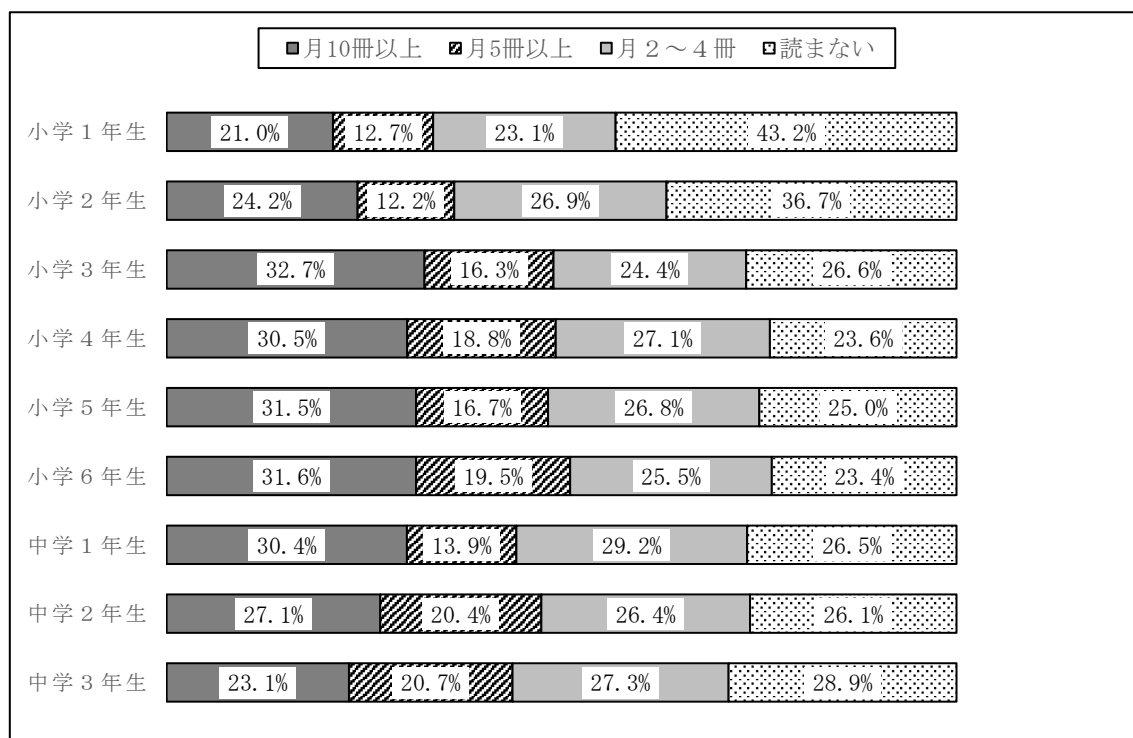
④あなたはどのような本を読んでいますか。



- ・学年が上がるにつれ、小説が増加し、絵本が減少していく傾向が見られる。要因として、学年が上がるにつれて読解力が上がり、物語を楽しむようになったためと考えられる。

・特に小説については、出版点数が多いので、児童・生徒が読みたいものと図書館蔵書との食い違いに注意をする必要があると考える。

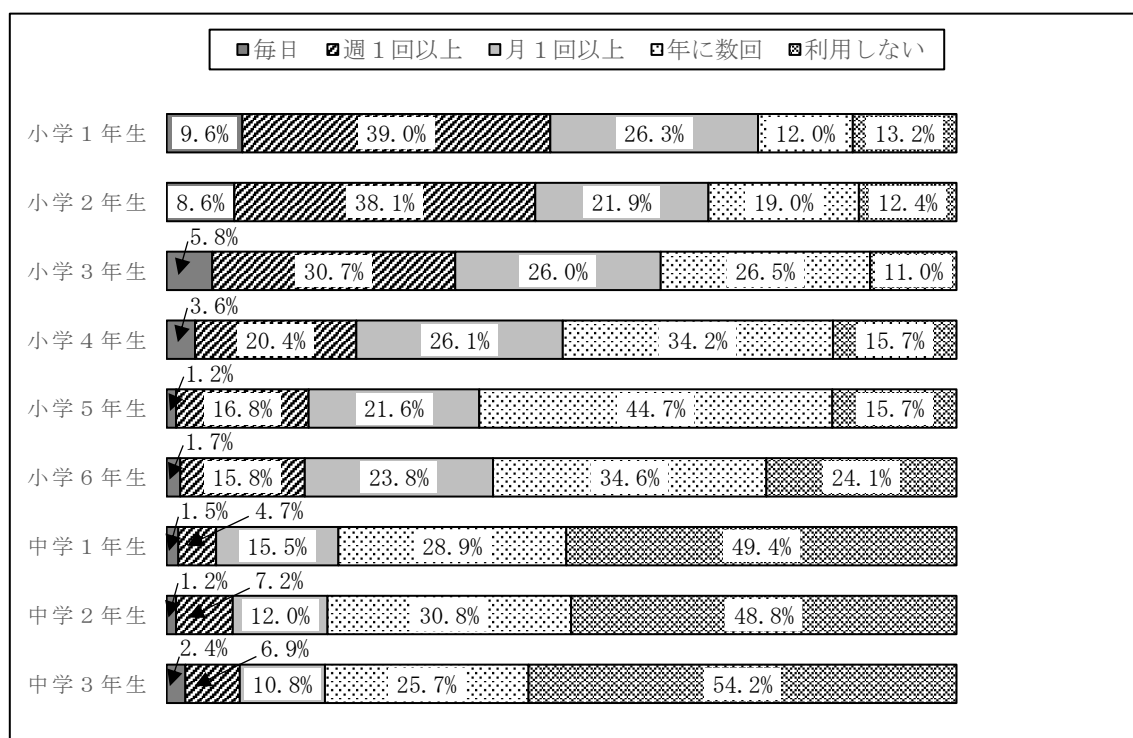
⑤あなたはマンガをどれくらい読みますか。



・本とマンガの読書頻度については、質問の単位が異なるので直接比較は難しいが、小学3年生から6年生は本よりもマンガが求められる傾向にあると考えられる。

・中学生になると、本の読書頻度が上がる一方で、マンガは下がる。

⑥学校の図書館をどれくらい使いますか。

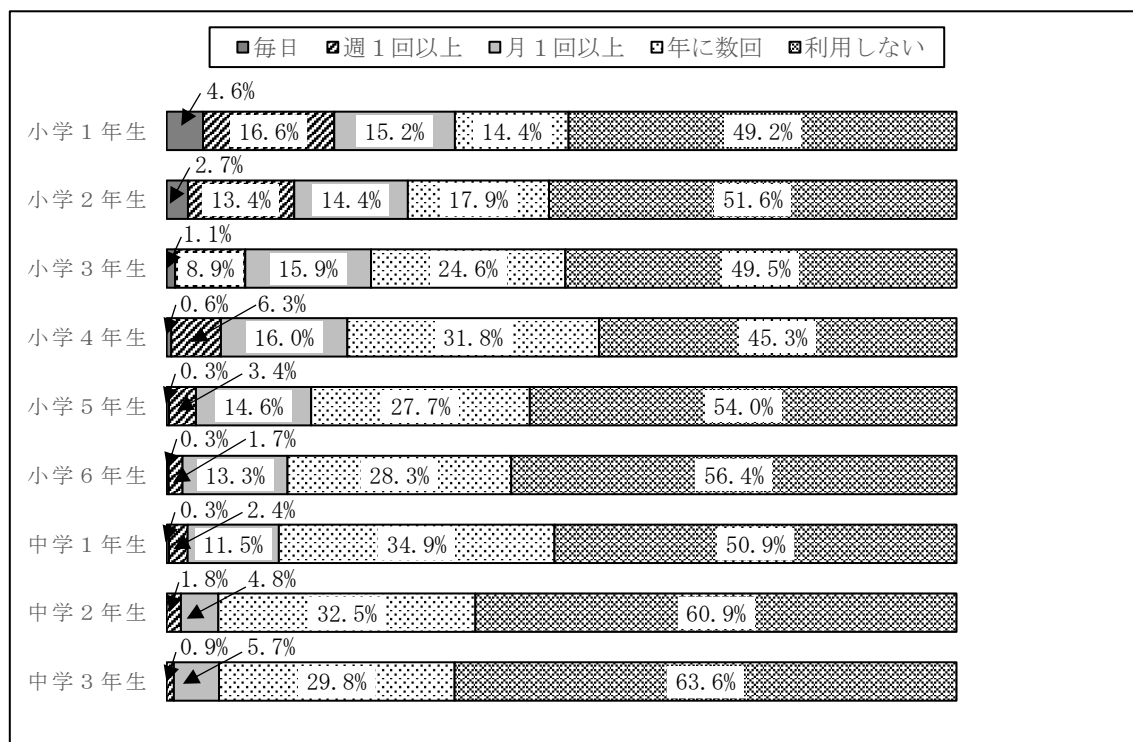


・利用回数は前回調査より減少している。学年別の集計では、「毎日」「週1回以上」利用するとの回答は、小学1年、2年では46%～48%となっているが、その後低下し中学生になると7%

以下まで利用頻度が減少する。

・要因としては、近年においては新型コロナウイルス感染拡大の影響があると考えるが、全体的には部活や習い事など様々な要素から学校の図書室を利用する機会が減っているものと考えられる。

⑦中央図書館・小田原駅東口図書館・ネットワーク施設をどれくらい使いますか。



・利用回数が前回調査より減少している。学年別に集計すると、「毎日」「週1回以上」とする回答は小学1年、2年では16%～21%となっているが、中学生も含め学年が上がるにつれ利用頻度が減少する。

・要因としては、校舎内にある学校図書室と違い、近隣在住を除き交通機関などを使って出向く必要があるため、利用動機が低いことが考えられる。また、新型コロナウイルス感染拡大により外出の機会が大きく制限されていたことも影響している可能性がある。

【参考データ】

●7歳～12歳 中央図書館貸出冊数、貸出者数

年度	貸出冊数	貸出者数	1人当たり貸出冊数
令和元年度	14,776冊	2,740人	5.39冊
令和2年度	16,255冊	3,214人	5.06冊

(令和2年度の7歳～12歳貸出冊数、貸出者数が前年度より増加している。

1人当たりの貸出冊数が減少している。)

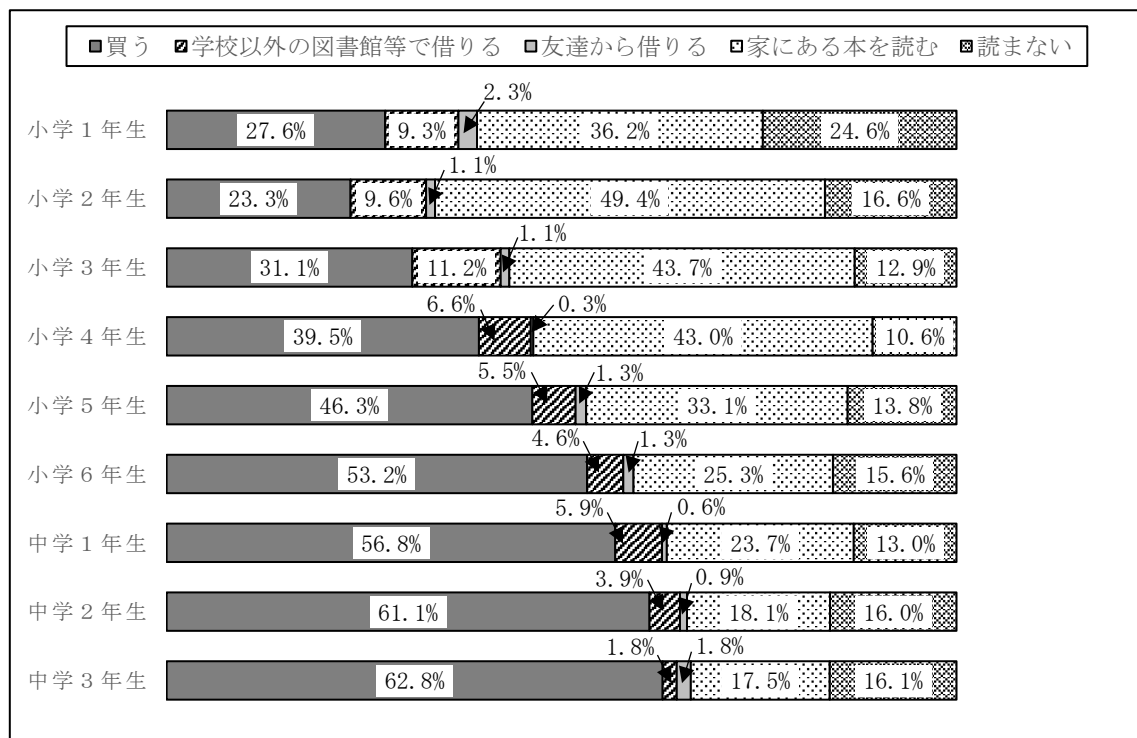
●13歳～15歳 中央図書館貸出冊数、貸出者数

年度	貸出冊数	貸出者数	1人当たり貸出冊数
令和元年度	1,751冊	398人	4.40冊
令和2年度	2,411冊	619人	3.89冊

(令和2年度の13歳～15歳貸出冊数、貸出者数が前年度より増加している。

1人当たりの貸出冊数が減少している。)

⑧新型コロナウイルス感染拡大で学校が休校の時、読みたい本をどのように手にしていましたか。

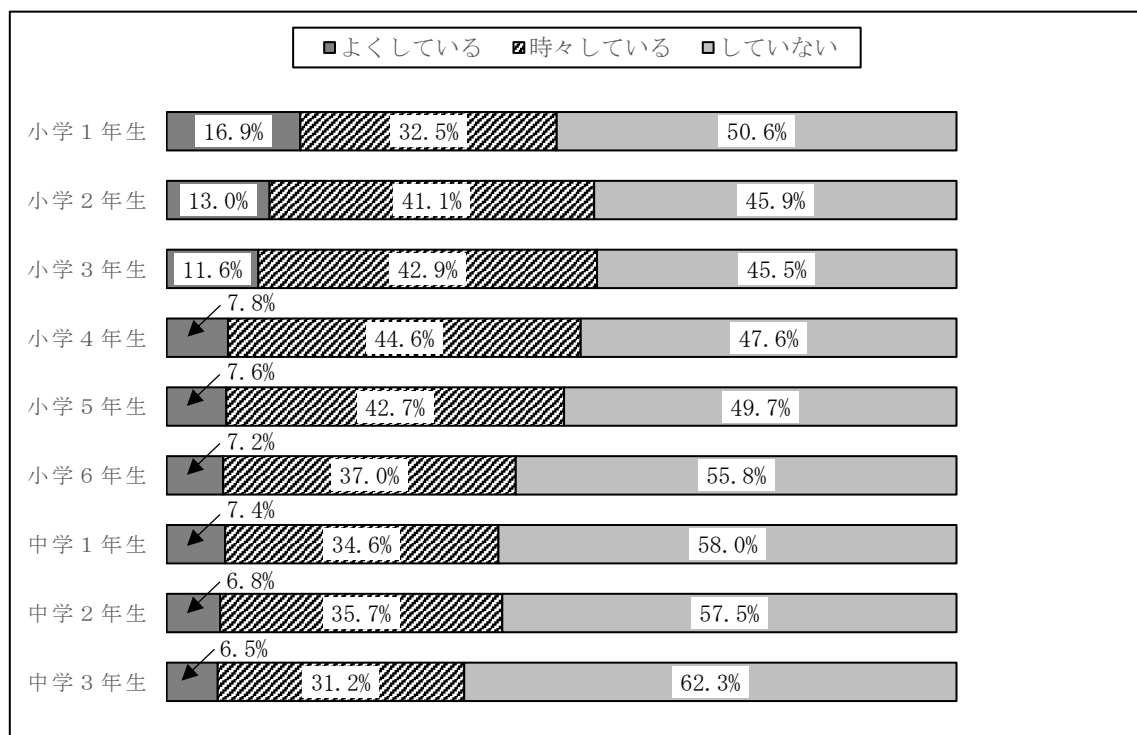


・学年が上がるにつれ、買うという回答が増える傾向が見られる。

これは、お小遣いがもらえるようになり、自分で本を買えるようになったからと考えられる。

・また、学年が上がるにつれ「購入する」割合が増加するのは、図書館の利用が減少するのと相対的な動きと考えられる。

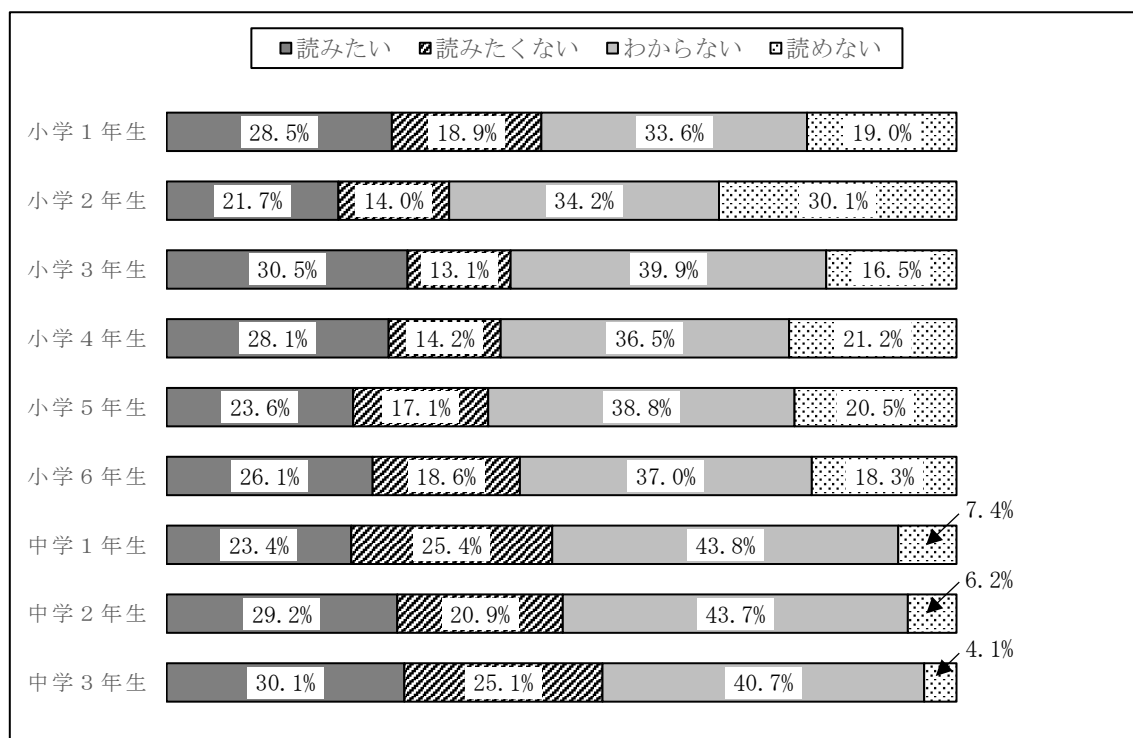
⑨家で本を読んで、本について親子で話し合ったりしていますか。



・学年が上がるにつれ、本について親子で話し合う機会は減少する傾向が見られる。

- ・要因として、子どもの成長につれて親子関係が変化するなどして、親と会話をする時間が短くなっていることが想定される。

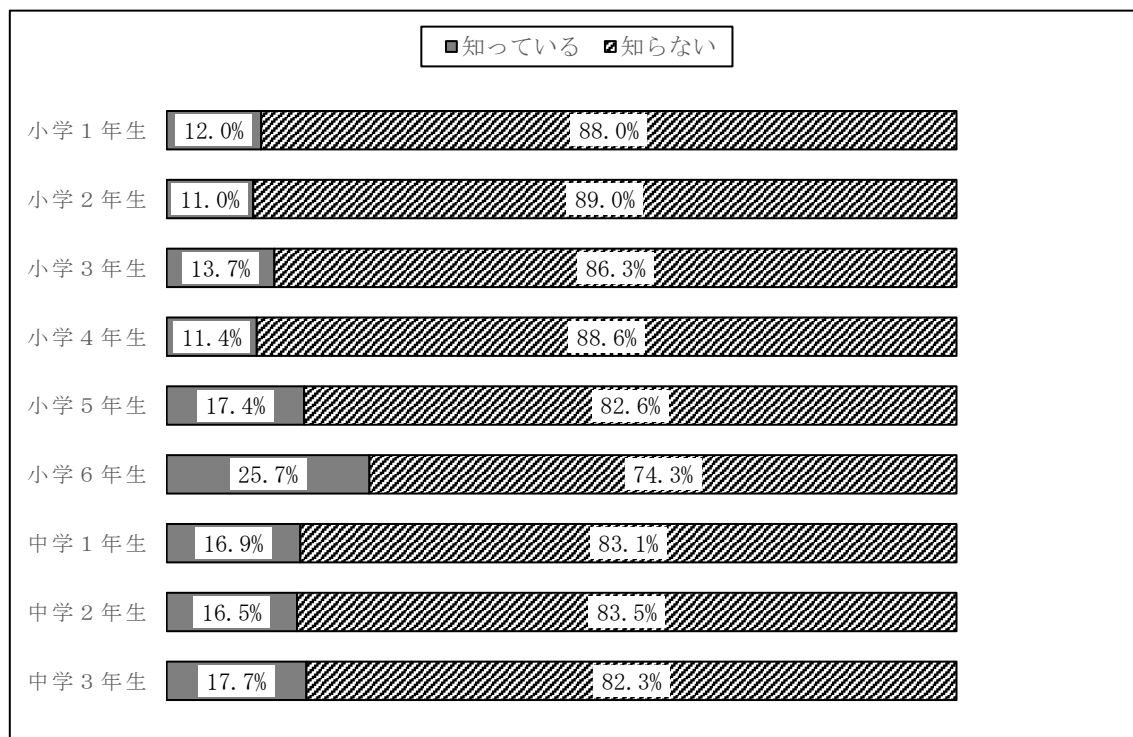
⑩スマートフォンやタブレットPCなどで読める「電子書籍」を図書館で読みたいですか。



- ・「電子書籍」を読みたいと回答した児童・生徒は、学年別に大きな差は見られない。

また、読めないと回答しているものが中学生になると大きく減少しているのは、中学生になるとスマートフォンなどの電子機器を使える環境が整っていくことによるものと考えられる。

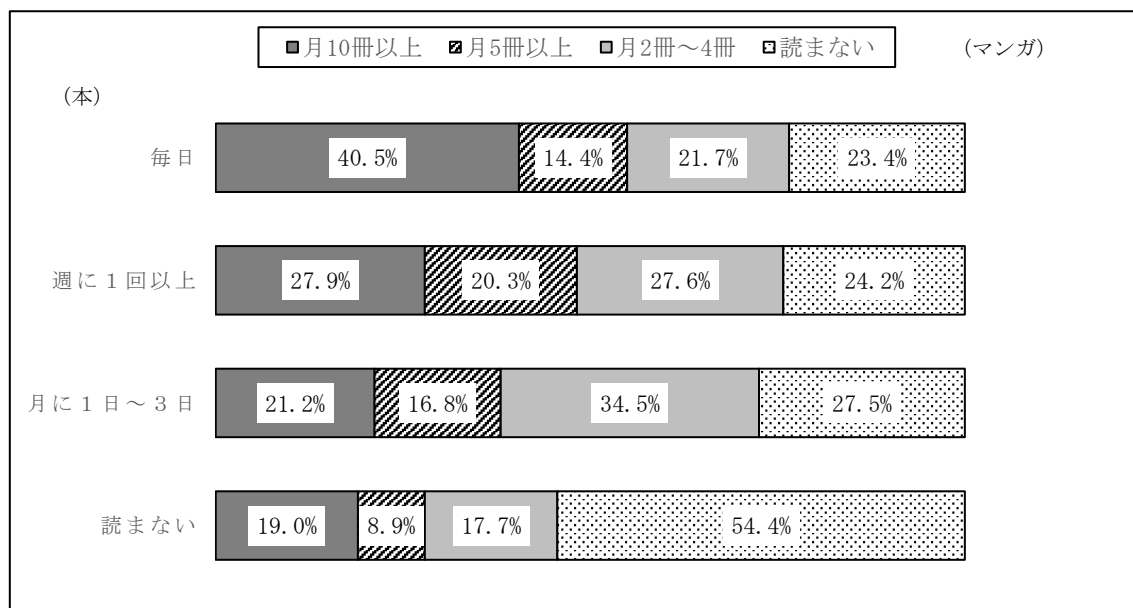
⑪小田原の文学者の事を知っていますか。



- ・全ての学年で知らないと回答した児童・生徒が圧倒的に多かった。
- ・ただし、小学5年生から知っていると回答した児童が増えているが、学校の授業などで扱わ

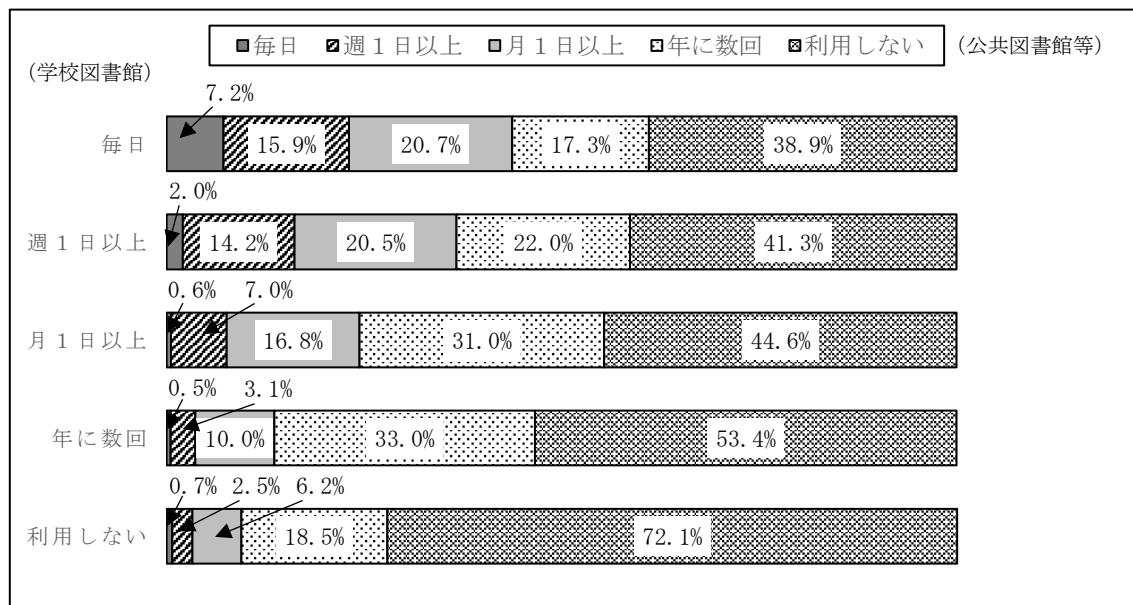
れたのではないかと想定される。

## (2) 本を読む頻度とマンガを読む頻度の関係について



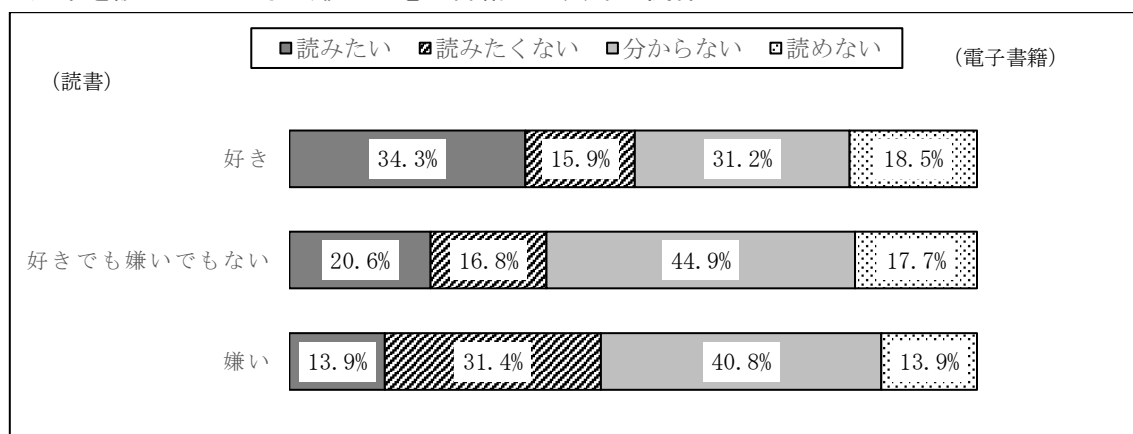
- ・本を毎日読むと回答した児童・生徒の中で、月10冊以上マンガを読むと回答したものの割合が40.5%で、本を読む頻度が多い子どもは、マンガを読む頻度も多い傾向が見られる。
- ・また、本を読まないと回答した生徒の中で、マンガを読まないと回答した生徒の割合が54.4%となった。本を読む頻度とマンガを読む頻度は正比例の関係にあると考えられる。
- ・一方、本もマンガも読まないとするものが全体で約7%存在する。

## (3) 学校図書館の利用頻度と公共図書館・図書施設の利用頻度の関係について



- ・学校図書館の利用頻度が減少すると図書館・図書施設の利用頻度が減少する傾向が見られる。
- ・学校図書館と公共図書館・図書施設の利用頻度は正比例の関係にあると考えられる。

#### (4) 本を読むことの好き嫌いとう電子書籍への興味の関係について



・本を読むことが好きと回答した児童・生徒は、電子書籍を読みたいと回答した割合が高く、嫌いと回答した児童・生徒は、電子書籍を読みたいと回答した割合は低い。

・なお、嫌いと回答した児童・生徒も、40.8%が分からないと回答しているため、電子書籍の内容によっては、本を読むことに興味を持つ可能性があることを示していると考える。